

施工要領書

ディスポーザ対応家庭用高度処理浄化槽 フジクリーンCD型

この度は、ディスポーザ対応家庭用高度処理浄化槽フジクリーンCD型をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。

この「施工要領書」をよくお読みになり、正しい施工を行ってください。

工事店（施工業者）の方へ

この「施工要領書」は浄化槽のみを対象としています。ディスポーザの施工はディスポーザメーカーの施工要領書に従って実施してください。

浄化槽工事は工事現場で浄化槽設備士が実地に監督してください。

工事前には、必ず関係官公庁に所定の申請書を提出して、許可を得てください。

労働安全衛生法など諸法令を守り、安全に施工してください。

プロワの段ボール箱に同封してある取扱説明書中の保証書に、型式、据付年月日、使用開始年月日、販売・工事店名などを記入し、お客様へ必ずお渡しください。また、維持管理要領書も一緒にお渡しください。

電気工事は、必ず電気工事士の資格をもつ専門業者に依頼してください。

工事を行う前には、部品が揃っていることを確認してから工事を進めてください。

目次

1. 取扱に関する注意	p1
2. 浄化槽の部品、重量、寸法一覧表	p4
3. 構造と機能	p6
4. 設置工事	p7
5. 試運転	p11
6. 特殊工事	p13
7. アフターサービスについて	p19
<参考> 工事のチェックリスト	p21



注意

施工要領書本文に出てくる警告、注意表示の部分は、浄化槽の施工前に必ずお読みになり、よく理解してください。





美しい水を守る

フジクリーン工業株式会社

フジクリーン

1 . 取扱に関する注意

この施工要領書で使われている表示マークには、次のような意味があります。表示と内容を必ずお読みになり、よく確認してください。

 警告 取扱を誤った場合に使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定されます。	 注意 取扱を誤った場合に使用者が傷害を負う危険および物的損害の発生が想定されます。
---	--

物的損害とは家屋・家財および家畜・ペットに関わる拡大損害を示します。

1 - 1 . 取扱に関する注意

警告 1) 感電・発火事故防止

電気配線工事は、電気工事士の資格をもつ電気工事業者に依頼してください。
ブロウおよび放流ポンプ(オプション)には、アース(端子またはワニくちクリップ)が付いていますので、電気事業法による「電気設備に関する技術基準を定める省令」に基づくD種(第三種)接地工事を行ってください。
ブロウの電源にコンセントを使用する場合は、JIS防雨型コンセントをご使用ください。
電源の一次側には、漏電遮断器(ELB)を付けてください。
タイマのカバーは、必ず閉じてください。

これらの注意を怠ると、感電・発火事故の生ずるおそれがあります。

注意 2) マンホール・点検口などからの転落・傷害事故防止

マンホールは、積載荷重に応じて適正なものを使用してください。
工事中は、必要なとき以外はマンホール・点検口のフタを必ず閉めてください。
マンホール・点検口のフタのひび割れ・破損などの異常を発見したら、直ちに取り替えてください。

これらの注意を怠ると、転落・傷害事故の生ずるおそれがあります。

注意 3) 傷害事故防止

槽の吊り上げ・据え付けは、玉掛け作業で行ってください。
槽の下には立ち入らないでください。
適正な吊り上げ角度で必ず4点吊りしてください。
槽の据え付け時には、落下や衝撃を与えないように静かに行ってください。

これらの注意を怠ると、傷害事故の生ずるおそれがあります。

注意 4) 転落事故防止

埋設工事に際して、穴を掘った周囲には、防護柵を作り、関係者以外立ち入らないようにしてください。
据え付け後の水張り、浮上防止金具の取り付け作業は足場板などで養生して行ってください。

これらの注意を怠ると、転落事故の生ずるおそれがあります。

**注意****5) 消毒剤による器物破損事故防止**

浄化槽に入れる消毒剤は、浄化槽を使用開始するまでは開封しないでください。
消毒剤を開封する前に、浄化槽へ流入する排水元の設備・機器（トイレ、浴室、洗面台、台所など）のトラップが切れていないことを確認してください。

これらの注意を怠ると、消毒剤から塩素ガスが発生し空気中の水分と反応し、塩酸を生じ、このため設備・機器の金属類を腐食し、機器破損・障害事故の生ずるおそれがあります。

**注意****6) 電気工事に関する注意事項**

ブロワおよび放流ポンプ（オプション）は、定格10A・交流100Vの専用回路を使用して下さい。
ブレーカー容量は、10A以上としてください。

ブレーカー容量が10A未満の場合、電源を他の機器と併用している場合には、他の機器の機能を損なうおそれがあります。

1-2. ディスポーザに関する留意事項

本浄化槽は、ディスポーザ対応型ですので破砕生ごみが配管内を通過します。配管の施工は特に注意して実施してください。

ディスポーザの設置をする場合は、ディスポーザメーカーの施工要領書に従って施工を行ってください。

**注意****1) 配管勾配に関する注意事項**

ディスポーザを接続する排水管は 40以上とし、配管勾配を必ず1/管径 以上とって施工してください。
浄化槽に接続する配管は 100以上とし、配管勾配を必ず1/100 以上とって施工してください。

これらの注意を怠ると、破砕生ごみが管内に堆積し、目詰まりするおそれがあります。

**注意****2) マスに関する注意事項**

ディスポーザにはトラップがついています。ディスポーザが設置されている台所からの配水管と本管の接続部にトラップ付のマスを使用しないでください。

破砕生ごみがトラップ付のマス内に堆積し、目詰まりするおそれがあります。

1 - 2 . 一般的留意事項

浄化槽工事は、工事現場で浄化槽設備士が実地に監督してください。

- 1 . 浄化槽の設置届けを確認してください。
- 2 . 工事施工要領書・工事仕様書、浄化槽工書の技術上の基準などの諸法令を、確実に守って工事してください。
工事が不完全な場合は、槽の破損による汚水漏れ・放流水質の悪化などの原因になります。
- 3 . 放流ポンプ槽を設けて強制排水する場合は、必ず臭突配管工事を行ってください。(オプション)
- 4 . 電気工事は、必ず電気工事士の資格をもつ専門業者に依頼してください。
- 5 . プロワを設置する場所は、通気・防湿・騒音に配慮してください。
振動防止のために、基礎はコンクリート製とし、プロワ自体の重量や振動に耐えるものとしてください。
据え付けのコンクリートの基礎は、建築物と直接つなげることなく20cm以上離し、地盤面(GL)より10cm以上高くし、プロワの外寸より5cm程度大きくしてください。
- 6 . 工事は浄化槽工書の技術上の基準を守り、特に基礎工事、埋戻し工事、上部スラブ打設などは、施工要領書に基づき正しく行ってください。
また、駐車場・車庫にする場合、交通量の多い道路のわきに設置する場合、近くの建築物の荷重が槽本体に影響する場合、軟弱地盤に施工する場合、多雪地域に設置する場合などは特殊工事になりますので、槽本体に影響を及ぼさないよう補強工事を行ってください。
本浄化槽は一般家庭用ですが、特に事業所、店舗などに隣接し不特定多数の車両が駐車されるような場所に浄化槽を設置される場合は、店舗等の規模、駐車場の広さなどを勘案して、予見する最大荷重に耐えうる補強工事に留意してください。
- 7 . 浄化槽を破損しないように、埋め戻しには、次のような事項に注意し作業してください。
 - 1) 水張りのあとに、埋め戻し作業を行ってください。
 - 2) 埋め戻しの土は、石などが混入しない良質土(山砂など)を用いてください。
 - 3) 埋め戻し時に重機のバケットなどを槽本体に当てたり、高い所から埋め戻しの土を落とさないでください。
- 8 . 浄化槽設置工事に伴う残土・残材は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」で、産業廃棄物となりますので、その規定にしたがって処理してください。
- 9 . 設置工事完了後は、巻末の浄化槽工事チェックリストにて確認してください。
- 10 . 使用者に、浄化槽の保守点検業者と維持管理契約をするよう指導してください。
- 11 . プロワの段ボール箱に同封してある取扱説明書、維持管理要領書を使用者に手渡してください。
また、取扱説明書に保証書がついていますので、必要事項の記入をお願い致します。
ディスポーザの保証書・取扱説明書はディスポーザの段ボール箱に同梱している添付書類に同封しています。ディスポーザの施工後、必ず使用者に手渡してください。
- 12 . 浄化槽の設置工事に関して不明な点は、弊社営業所にお問い合わせください。

2. 浄化槽の部品、重量、寸法一覧表

2-1. 部品一覧表

型 式 部 品 名	CD-5型		CD-7型		CD-10型	
	荷 姿	数 量	荷 姿	数 量	荷 姿	数 量
1, 浄化槽本体	裸	一式	裸	一式	裸	一式
2, プロウ	段ボール箱	ブロワ1台	段ボール箱	ブロワ1台	段ボール箱	ブロワ1台
		ホース1個		ホース1個		ホース1個
		バンド2個		バンド2個		バンド2個
		添付書類1式		添付書類1式		添付書類1式

マンホールフタ、枠は本体にバンドで固定されています。

添付書類の中に、取扱説明書(保証書)、維持管理要領書があることを確認してください。

(注) ディスポーザを浄化槽本体・プロウとセットで出荷しています(標準の場合)

・荷 姿：段ボール箱 ・数 量：一式(ディスポーザ本体、ストラップ、添付書類、付属部品)

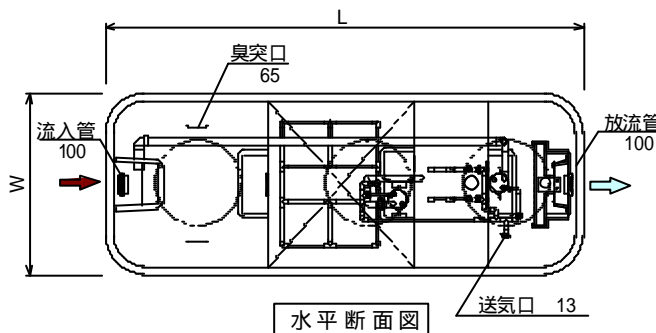
添付書類の中に、保証書、取扱説明書、施工要領書、シールがあることを確認してください。

ディスポーザ施工後、お客様に添付書類を必ず手渡してください。

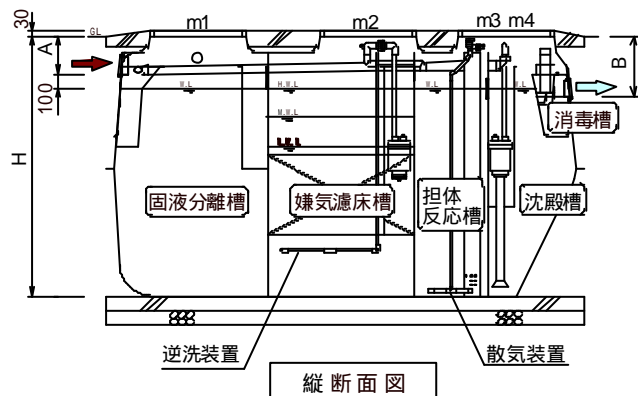
(ディスポーザ施工日程が浄化槽施工と異なる場合などはディスポーザの保管にご注意ください)

2-2. 仕様、寸法一覧表

仕様表 (嫌気濾床槽の容量はH.W.Lの容量です。)



水平断面図



縦断面図

図はCD-7型(10型はマンホールが4ヶになります)

型 式	CD-5型	CD-7型	CD-10型	
処理対象人員(人)	5	7	10	
有効容量(m ³)	固液分離槽	1.029	1.447	2.127
	嫌気濾床槽	1.031	1.437	2.103
	(流量調整部)	(0.300)	(0.419)	(0.769)
	担体反応槽	0.563	0.726	1.091
	沈殿槽	0.420	0.512	0.713
	消毒槽	0.024	0.024	0.024
総容量	3.067	4.146	6.058	
目安重量(kg)	350	450	650	

寸法表 (単位:mm)

型 式	CD-5型	CD-7型	CD-10型
最大横巾: W	1,230	1,230	1,450
最大縦巾: L	2,460	3,260	3,820
全 高: H	1,770	1,770	1,920
流入管底: A	260		
放流管底: B	410		
流入、放流管径	100		
マンホール: m1	450	600	450
マンホール: m2	600	600	450
マンホール: m3	600	600	600
マンホール: m4	-	-	600

注意

目安重量は槽内に水のない空の状態での参考重量です。保管時などで槽内に雨水などが混入していることもありますのでご注意ください。

表中の寸法は本体の板厚が含まれています。実際の配管工事は20mmから30mm程度の余裕を持って施工してください。

ブロワ（送風機）仕様表

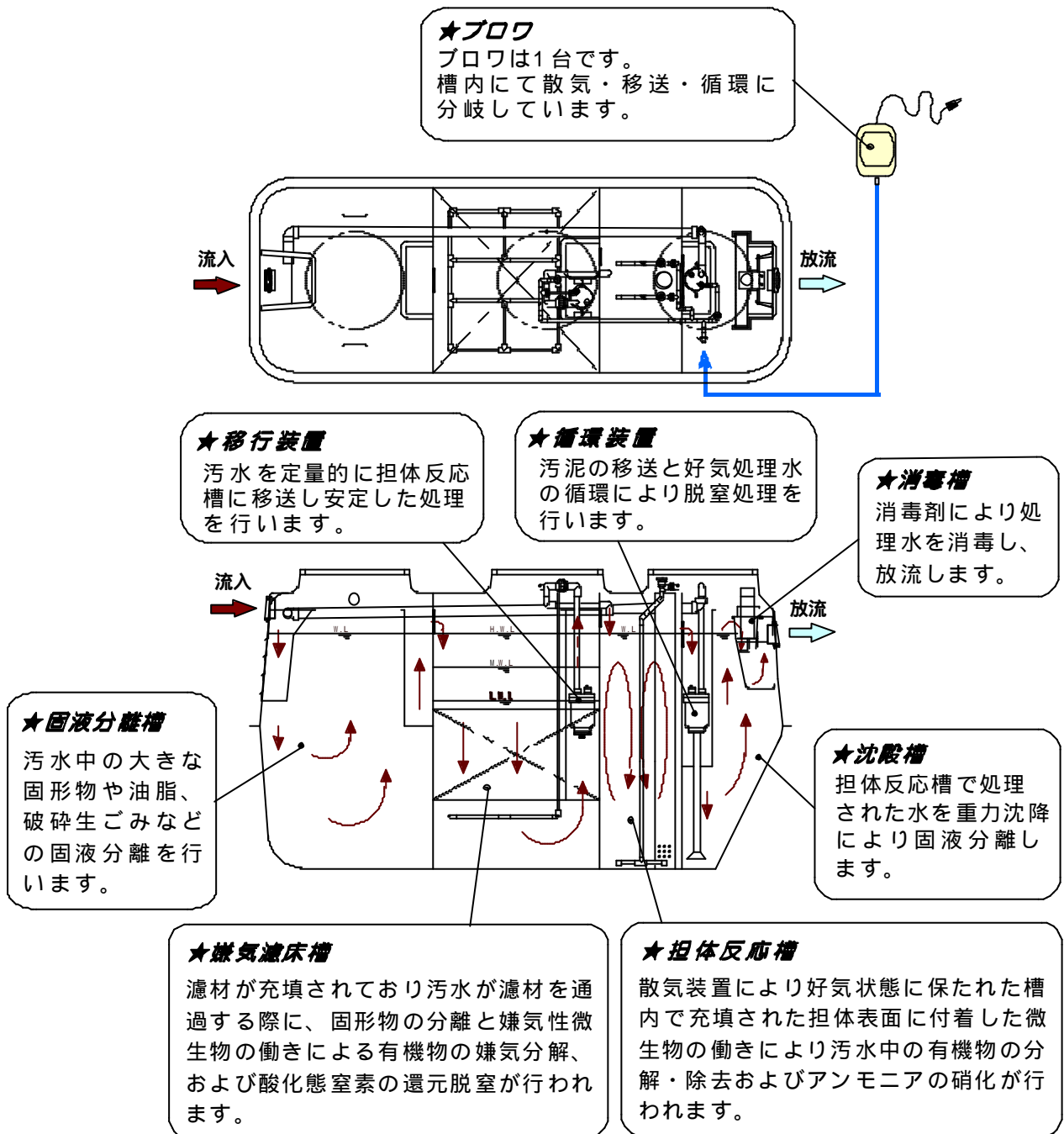
CD型のブロワは1台で運転をします。

型 式	CD-5型	CD-7型	CD-10型
ブ ロ ワ	MAC60N	MAC80E	MAC120E
吐 出 風 量	60L/min	80L/min	120L/min
常 用 圧 力	15kPa	17kPa	18kPa
吐 出 口 径	13A	13A	20A
定 格 電 圧	AC100V	AC100V	AC100V
周 波 数	50/60Hz	50/60Hz	50/60Hz
消費電力(50Hz/60Hz)	47/47W	86 / 86W	125/125W
定 格 電 流	1.5A	1.5A	4.0A
重 量	約5.0kg	約9.0kg	約17.5kg

吐出風量および消費電力は、常用圧力・定格電圧時の特性値を示します。
定格電流値は参考値です。使用条件で異なります。
MAC120Eは 13×20異径ソケット1ヶを同梱しています。

3 . 構造と機能

3- 1.各部の名称とその働き



注) 模式図はCD-7型のものです。

4 . 設置工事

4- 1.設置場所の選定

工事を行うための次の条件を確認してください。

- 設置場所の広さ……………設置図面どおりの広さがあるか。
- 配管路の状況……………浄化槽の配管経路に障害物はないか。
- 搬入、搬出路の状況……………浄化槽の持ち込みができるか。
- 設置場所周囲の状況……………資材置場、工事車両、残土の一時置場があるか。
- 土質の良否および湧水の有無……………土質の状況はどうか。湧水はあるか。矢板など必要か。
- 工事電力、工事用水の有無……………現場で電気、工事用水が調達できるか。
- 放流の方法……………自然放流かポンプアップ放流か。
- 浄化槽および付属品は整っているか。
- 浄化槽の施工の際は現場毎に標識を揚げること。

4- 2.基礎工事

根切り（深さ2.0m以上）は、地山の掘削作業主任者の指揮のもと土砂崩壊がないように地質に応じて、掘削深さとのり面勾配を考慮して、安全な作業を行ってください。（下表参照）

掘削深さとのり面勾配

地質の種類	掘削面高さ	掘削面	備考
岩盤又は堅い粘土からなる地質	5 m未満	90°以下	地質の種類を正しく判断することは難しいため、基準よりも安全な勾配をとり、掘削することが望ましい。
その他の地質	2m未満	90°以下	
	2m以上5 m未満	75°以下	
砂からなる地質	5 m未満又は35°以下		

安全に作業が行われるように適切な余堀（50cm程度）を行ってください。

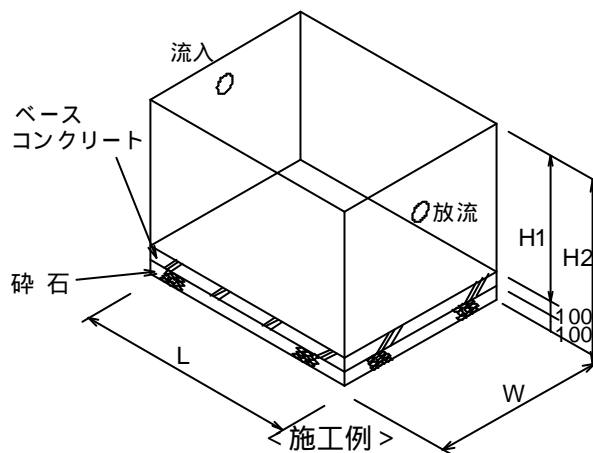
標準工事における地耐力は、5人槽は24.5kN/ (2.5t/)以上、7～10人槽は49kN/m²(5.0t/m²)以上です。地耐力が不足する場合は、補強工事をしてください。

基礎工事は、下表の寸法を参考にしてください。

既設の建物や工作物が近くにあり、地下水位が高く地山が崩壊する恐れのある場合は、山留めを行ってください。

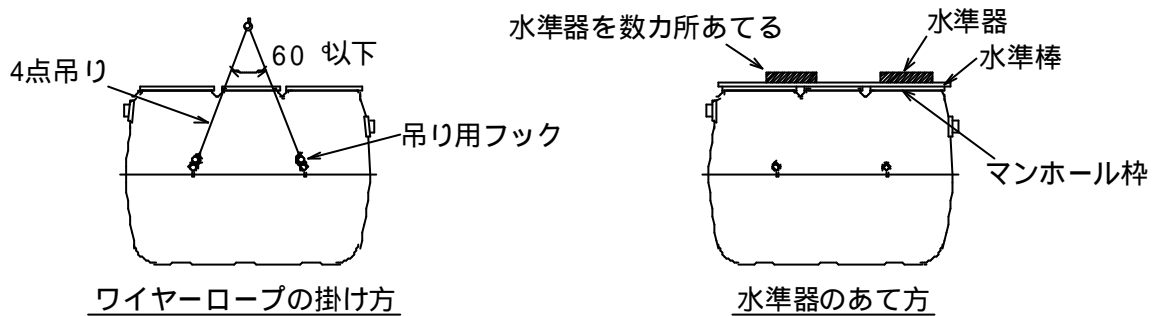
(単位:mm)

人槽(人)	W	L	H1	H2
5	1,230	2,460	1,770	1,970
7	1,230	3,260	1,770	1,970
10	1,450	3,820	1,920	2,120



4-3. 据付工事

移動式クレーンの運転の業務は有資格者が行ってください。
 移動式クレーンの玉掛けの業務は有資格者が行ってください。
槽は必ず水平に据え付けてください。・・・水平勾配は1/200以下としてください。
 浄化槽が傾いていると、槽内の水の流れやばっ気などに偏りが生じ、処理機能が低下して放流水質が悪化する原因になります。
 水準器を槽のマンホール枠に数カ所あてて、槽の水平を出してください。
 槽をつりあげるときは、必ず4点吊りにしてください。
 槽を吊り上げる場合は必ず槽のバランスをとってください。
 湧水があるときは、浮上防止工事を行ってください。 p15参照



4-4. 埋め戻し工事

埋め戻しの前には、必ず流入側から浄化槽本体の規定水位まで水張りを行って、水平および水漏れの有無を確認してください。

注意 放流先が未接続の場合などで規程水位以上の水張りを行うと槽内の水位が異常に上昇し、担体が槽外へ流出する恐れがありますので絶対に行わないでください。

槽内に土砂が入らないように、マンホールにフタをしてから埋め戻してください。

埋め戻しの土は、石などが混入しない良質土（山砂など）を用いてください。

水締めを行いながら埋め戻し、突き棒などで必ず突き固めてください。

4-5. 配管工事

次の配管材料を準備してください。

配管名称	流入管、放流管	臭突管	送気管
仕様	VP100またはVU100	VP65またはVU65	VP13・20

生活排水及びディスポーザ排水以外の特殊な排水や雨水は、絶対に浄化槽に流入させないでください。
 起点、屈曲点、合流点には適正なマスを設置してください。

流入経路は全てインバートマスとしてください。また、二重トラップにならないようにしてください。

ディスポーザには既にトラップが設置されておりますのでご注意ください。

流入管、放流管の勾配は1/100以上とし、逆勾配にならないように注意してください。また、流入管勾配はディスポーザ排水中の卵の殻などが堆積するおそれがありますので、余裕をもって施工してください。ディスポーザを設置する排水管は 40以上で、勾配を1/管径以上としてください。勾配が不十分だと排水管が詰まるおそれがあります。

臭突管には汚水の配管を絶対に接続しないでください。

4-6. 空気配管工事

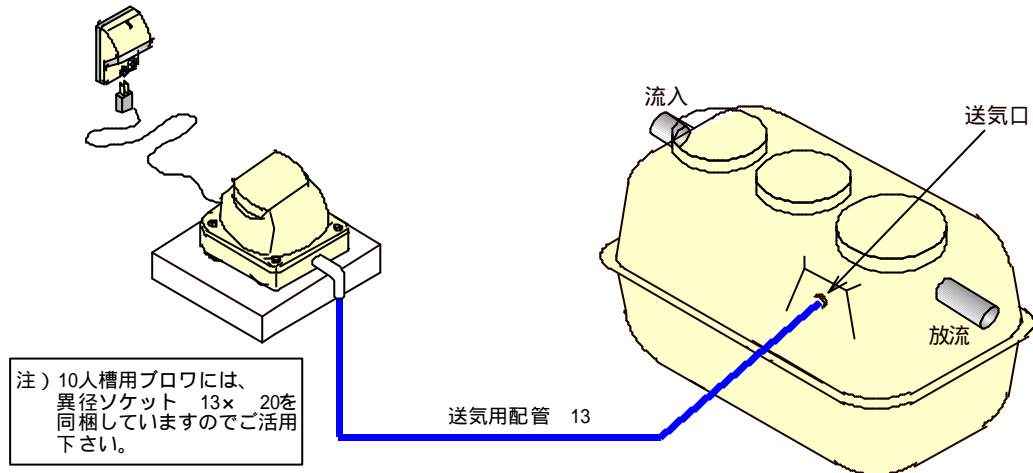
浄化槽本体の送気口は1箇所のみですのでブロワからの空気配管を接続してください。

空気配管を埋戻す際に、埋戻し土などが配管内に混入しないよう注意してください。

空気配管長さは、5 m以内とし、曲がりには5カ所以内としてください。5 mを越えて10 m以内の場合は、径違いソケットで配管径を大きくして風量の損失を防いでください。

(例) 13 16または 20

吐出口からの空気の送り先は、次のとおりです。(p11の空気配管図をご参照ください)



<注意> 配管内に埋戻し土などが入らないように注意してください。

4-7. ブロワの設置工事

ブロワは、保守点検が容易に行える場所に設置してください。

ブロワは日陰で風通しの良い、雨水のかからないところに設置してください。

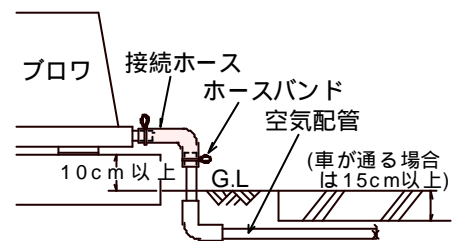
出窓、軒下などでブロワ上部に集積された雨水が流れ落ちるような場所には設置しないでください。

ブロワは換気扇の近くなど、油分を吸い込む可能性のあるところから離して設置してください。

ブロワと空気配管の接続は、右上図のように行ってください。

ブロワの基礎は、建物(家屋)の外壁から20cm以上離し、かつ建物(家屋)の基礎とつながらないようにしてください。

空気配管の上を車が通る場合は、厚み15cm以上の鉄筋コンクリートで保護してください。



4-9. 電気配線工事

機器類に付属している説明書を参考にして、正しく施工してください。



警告 電気配線工事は、電気工事士の資格をもつ電気工事業者に依頼してください。

ブロワの本体および放流ポンプ（オプション）には、アース（端子またはワニくちクリップ）が付いていますので、電気事業法による「電気設備に関する技術基準を定める省令」に基づくD種(第三種)接地工事を行ってください。

<三相ポンプの場合>

キャプタイヤケーブル先端の接続端子を緩みの無いようにしっかりと制御盤の端子台に接続してください。

電源の一次側には、漏電遮断器（ELB）を付けてください。

屋外コンセント用のブレーカー容量は10A以上と余裕をもったものとしてください。

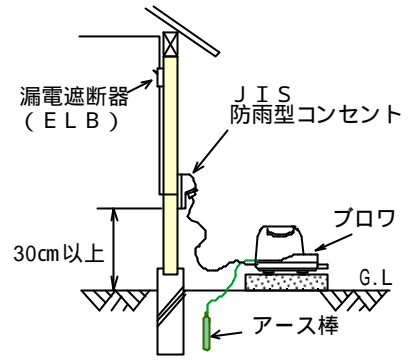
ブロワおよび放流ポンプの電源プラグは確実に差し込んでください。

電源を切るときはプラグを持って抜いてください。

（コードを持って抜かない）

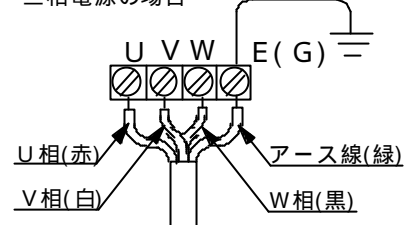
プラグ、コードの上に物を置いたり、コードに荷重をかけるしないでください。

ディスポーザの電気配線工事はディスポーザの施工要領書に従ってください。



漏電遮断器、アース棒とJIS防雨型コンセントは製品に含まれていません。

三相電源の場合



警告 これらの注意を怠ると、漏電・感電・発火の生ずるおそれがあります。

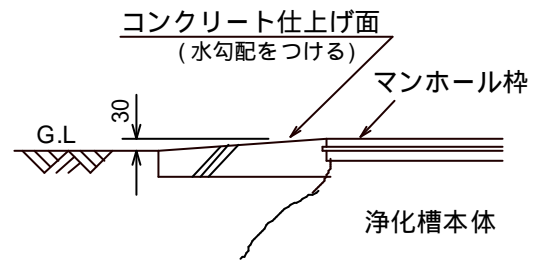


注意 放流ポンプ槽（オプション）の電気配管は配線後に湿気や消毒剤からの塩素ガスが逆流しないように、必ずコーキング処理をしてください。

4-10. コンクリートスラブの打設工事

埋め戻し工事が完了したら、マンホールの周囲にコンクリートを打設します。

標準埋設の場合は、右図を参考にしてください。



4-11. 消毒剤の開封

薬剤筒の中のポリ袋に消毒剤が入っていますので、浄化槽を使用開始するときにはポリ袋を開封して消毒剤を取り出し、薬剤筒に入れ直してください。

浄化槽に入れる消毒剤は、浄化槽を使用開始するまでは開封しないでください。

消毒剤を開封する前に、浄化槽へ流入する排水元の設備（トイレ、浴室、台所など）のトラップが切れていないことを確認してください。



警告 これらの注意を怠ると、消毒剤から塩素ガスが発生し空気中の水分と反応し、塩酸を生じ、このため設備・機器の金属類を腐食し、機器破損・障害の生ずるおそれがあります。

5 . 試運転

施工が完了したら、試運転を実施してください。

< 試運転の項目 >

- (1) 槽外空気配管の確認
- (2) 空気配管バルブの状態確認
- (3) 散気・移行・循環装置の確認
- (4) 担体反応槽のばっ気状態確認
- (5) 越流堰の調整

(1) 槽外空気配管の確認

ブロワから浄化槽への槽外空気配管が正しく接続されているか、ブロワを運転して確認してください。ブロワ運転時に、次のようになれば正常です。

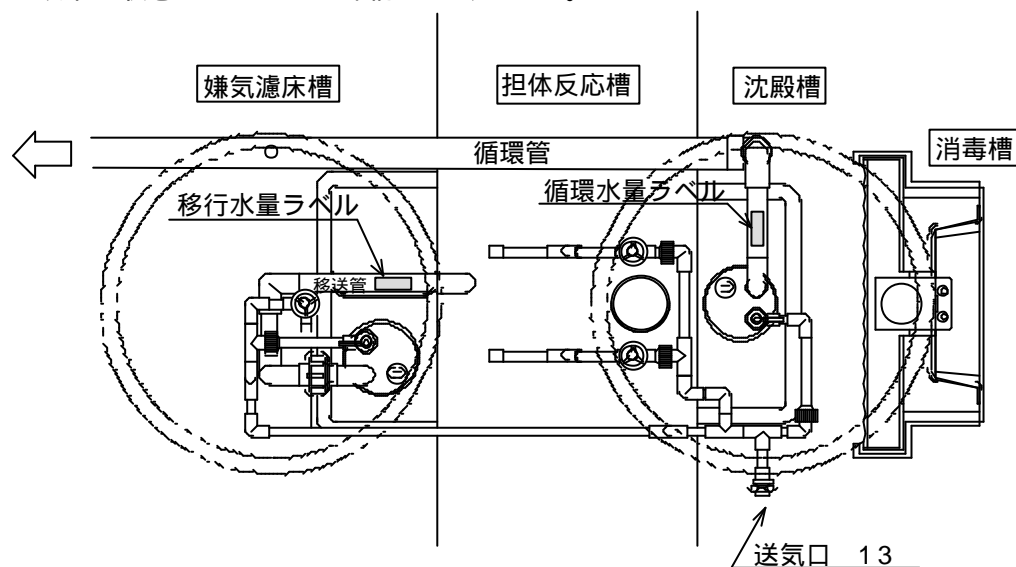
担体反応槽がばっ気され気泡が浮上

移行装置・循環装置が稼働

注) 嫌気濾床槽内にある逆洗バルブ(赤)は通常「閉」です。逆洗バルブ(赤)は清掃時などに手で操作します。

(2) 空気配管バルブの状態確認

バルブが以下の状態にあることを確認してください。



注) 模式図はCD-7型のものです。

散気バルブ(青色)：常時「開」(全開)

移行バルブ(白色)：常時「開」<標準目盛位置=p12参照>

循環バルブ(白色)：常時「開」<標準目盛位置=p12参照>

逆洗バルブ(赤色)：常時「閉」(全閉)

散気装置の設定方法

散気装置は担体反応槽の好気処理に必要な装置です。散気管は2系列に分かれており、それぞれに散気バルブ(青色)を設けています。担体反応槽のばっ気が均等に行われているか目視で確認し、もし不均等な場合はバルブ(青色)で調整してください。

その場合、ばっ気の強い方のバルブコックを絞って調整してください。

注) 使用開始直後は担体が流動しづらい場合がありますが、1週間程度で馴染み流動します。

移行装置の設定方法

移行装置は嫌気濾床槽から担体反応槽へ汚水を定量移送する装置で、間欠定量ポンプを使用しています。安定した処理を行うためにも移行水量の設定が重要になります。

移行水量は日平均汚水量（Q）の4倍を目安にしています。移行バルブ（白色）のバルブ開度があっているか確認してください。あっていない場合はバルブ目盛を調整してください。

移行装置の移送管途中に使用水量（流入水量）に対するバルブ開度と1サイクル時間の目安ラベル（水位MWL）を貼付していますので運転初期など実使用水量が不明の場合の参考にしてください。

使用水量(m ³ /日) (目安人員)	0.6 (3人)	1.0 (5人)	1.4 (7人)	2.0 (10人)
バルブ開度(%)	20	25	30	40
1サイクル時間(秒)	61	37	26	18

循環装置の設定方法

循環装置は沈殿槽底部に汚泥が蓄積しないように固液分離槽に移送することと、常時処理水を移送することで窒素除去をおこなうために重要な装置で、間欠定量ポンプを使用しています。

循環水量は日平均汚水量（Q）の3倍を目安にしています。循環バルブ（白色）のバルブ開度があっているか確認してください。あっていない場合はバルブ目盛りを調整してください。

循環装置の移送管途中に使用水量（流入水量）に対するバルブ開度と1サイクル時間の目安ラベル（水位MWL）を貼付していますので運転初期など実使用水量が不明の場合の参考にしてください。

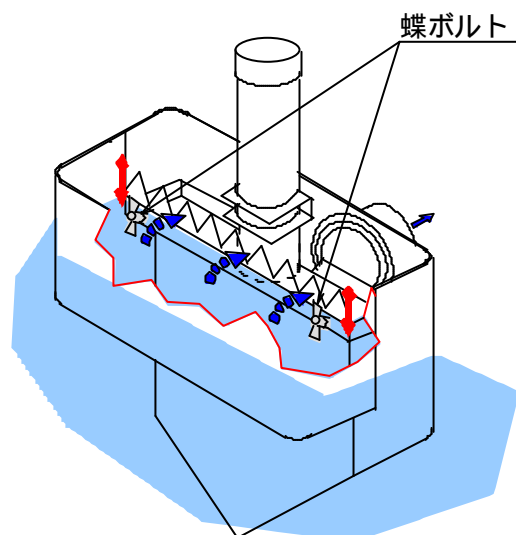
使用水量(m ³ /日) (目安人員)	0.6 (3人)	1.0 (5人)	1.4 (7人)	2.0 (10人)
バルブ開度(%)	15	20	25	30
1サイクル時間(秒)	81	49	35	24

(3) 越流堰の設定

越流堰の高さを調整することができますので移流の状態を目視で確認しながら全体に均等に移流するように調整してください。

調整は越流堰にある蝶ネジをゆるめると堰を動かすことができます。調整後は蝶ネジを再度しっかりと締めてください。

重要：調整堰の設定は、安定した放流をおこなうのに非常に重要な管理項目です。



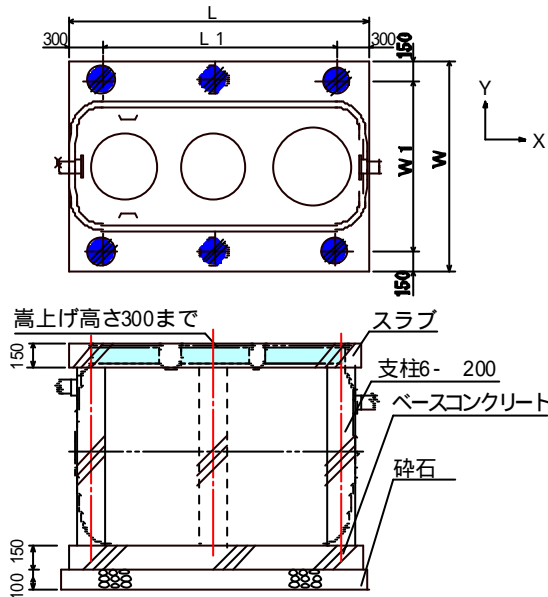
6 . 特殊工事

6- 1.車が通る場所に設置する場合

総重量が2,000kg以下の乗用車(1輪あたりの概略重量500kg以下)が通る場所に設置する場合は、次の要領で施工してください。それ以上の車が通る場合は、弊社にお問い合わせください。

1) 支柱工事の方法

据付け例 <乗用車(1輪あたりの概略重量500kg以下)の場合>



寸法表 <乗用車(1輪あたりの概略重量500kg以下)の場合>

記号	人 槽 (人)		
	5	7	10
W	1,830	1,830	2,050
L	2,460	3,260	3,820
W1	1,530	1,530	1,750
L1	1,860	2,660	3,220

(単位mm)

配筋仕様 <乗用車(1輪あたりの概略重量500kg以下)の場合>

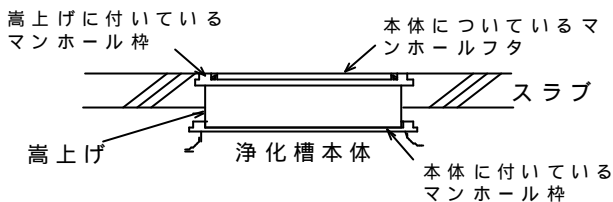
名 称		厚 さ	人 槽 (人)		
			5	7	10
スラブ	X方向	150mm	柱位置(W=300)上下共 3-D13、他D10@200シングル		
	Y方向		D10@200シングル		
ベース コンクリート	X方向	150mm	D10@200シングル		
	Y方向		D10@200シングル		
支柱 200	主 筋		4-D13		
	HOOP		D10@150		
	本 数		4	6	

(2) マンホールの施工方法

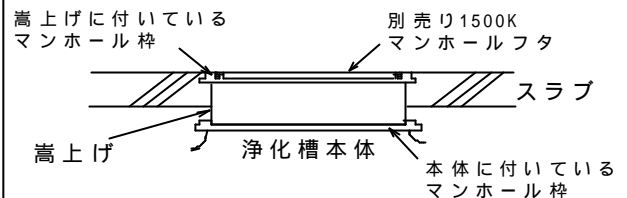
乗用車等(1輪あたりの概略重量500kg以下)の場合

3t車等(1輪あたりの概略重量1,500kg以下)の場合

- マンホールフタ及び枠は浄化槽本体に付いているものがそのまま使用できます。
 - 別売の枠付嵩上げは、そのまま使用できます。
- <取付け方法>
1. 本体のマンホールフタを取り外します。
 2. 別売の枠付嵩上げを槽本体のマンホール枠に寄せ、ドリルねじなどで固定します。
 3. 取り外したマンホールフタをかぶせます。



- マンホールフタは、別売の1500K用マンホールフタ(FRP製)に交換してください。
 - 別売枠付嵩上げは、そのままの使用できます。
- <取付け方法>
1. 本体のマンホールフタを外します。
 2. 別売の枠付嵩上げを槽本体のマンホール枠に寄せドリルねじなどで固定します。
 3. 別売りの1500K用マンホールフタをかぶせます。



1輪あたりの概略重量が1500kgより重い場合、施工方法は弊社にお問い合わせください。



注意

槽本体に取り付けてあるマンホール枠は500K用のため、直接1500K用マンホールフタを取り付けしないでください。

転落・傷害事故の生ずるおそれがあります。

荷重別マンホールフタ品名

適用	乗用車用<枠付> (1輪あたりの概略重量500kg以下)	3t車用<枠付> (1輪あたりの概略重量1,500kg以下)
450用	450-500K	450-1500K
600用	600-500K	600-1500K

6-2. 深埋めの場合

深埋めになる場合は、次の要領で施工してください。

300mmを越える嵩上げは、絶対にしないでください。

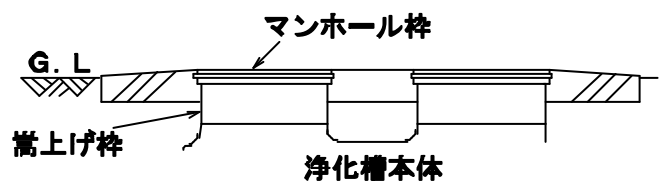
300mmを越えると、大きな土圧が浄化槽本体にかかり、槽が変形したり破損のおそれがあります。また、保守点検時の操作・作業が十分に行えず、放流水質が悪化する原因になります。

(1) 深埋めが300mm以下の場合

別売の枠付嵩上げを使用して、嵩上げを行ってください。

<施工方法>

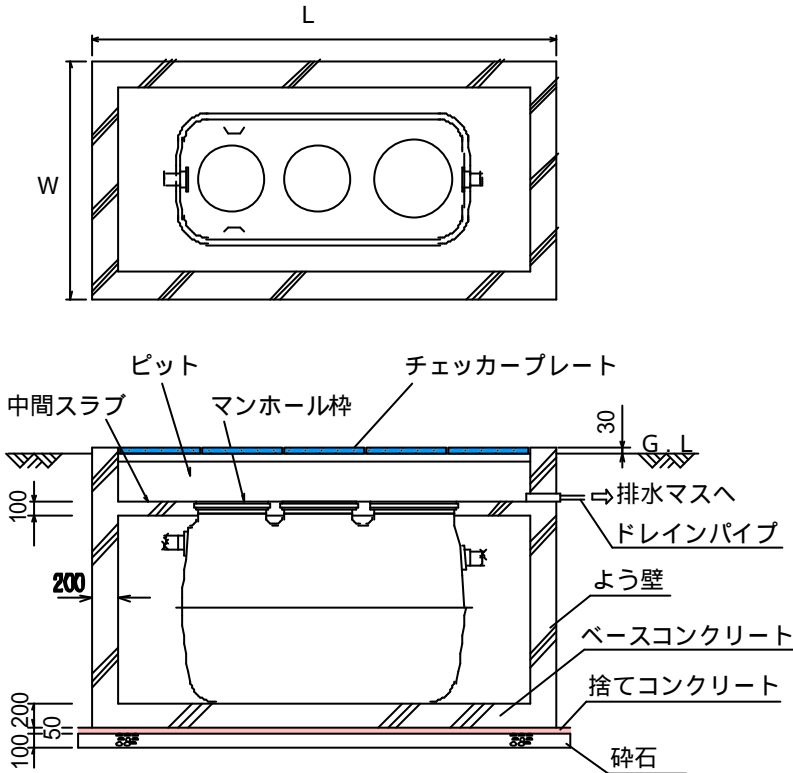
1. 本体のマンホールフタを取り外します。
2. 嵩上げを高さに合わせてカットします。
3. 別売の枠付嵩上げを本体に付いているマンホール枠に寄せ、ドリルねじなどで固定します。
4. マンホールフタをかぶせます。



(2) 深埋めが300mmを越える場合

原水ポンプ槽を設置して、深埋めを300mm以下にしてください。
 原水ポンプ槽が設置できない場合は、ピット工事を行ってください。
 ピット工事は次の例を参考にしてください。

ピット工事の施工例 下図は施工例です。よう壁にかかる土圧、上部からの荷重などを十分に検討してよう壁の仕様を決めてください。



- ・土圧から浄化槽を保護するために、浄化槽の周囲によう壁を設けてください。
- ・ピット内には水抜き用のドレインパイプを設けてください。

寸法 (単位:mm)

人槽(人)	W	L
5	2,020	3,330
7	2,020	4,130
10	2,240	4,690

配筋仕様

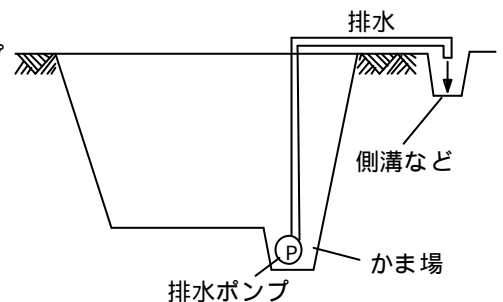
名称	版厚	仕様
よう壁	200	D10@200 ダブル
ベースコンクリート	200	D10@200 ダブル
中間スラブ	100	D10@200 シングル

6-3. 湧水がある場合

地下水の多い場所や軟弱な地盤の場合の掘削は、必ず法面崩壊防止のため適切な施工をしてください。

湧水がある場合には右図のようにかま場を作り、ポンプで排水しながら作業を行ってください。

地下水位がベースコンクリート上面より高い場合には、槽の浮上や槽本体の破損を防止するため、浮上防止工事を行ってください。

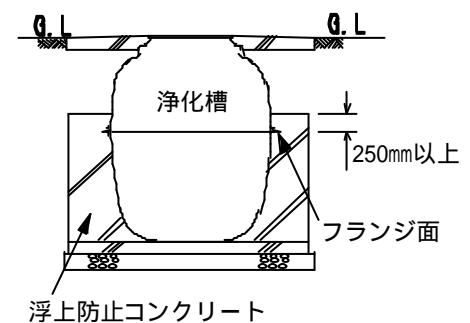


浮上防止工事の例

槽の浮上や槽本体の破損を防止するため、本槽の周囲をコンクリート(浮上防止コンクリート)で固めてください。

この場合、槽本体の外槽面は布などの柔らかいもので包み、槽が損傷しないよう注意してください。

浮上防止コンクリートは、必ず浄化槽の内部に規定の水位まで水張りを行ってから打設してください。



6-4. 特殊な荷重がかかる場合 (建築物、道路のきわ、がけ下など)

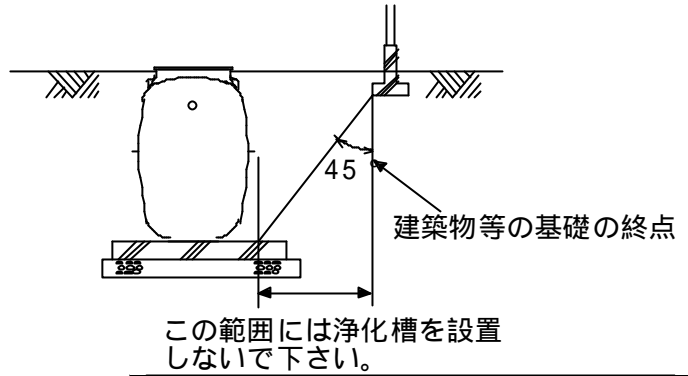
建築物、道路の際およびがけ下等は、非常に大きな土圧が浄化槽にかかりますので、次の要領で工事を行ってください。

(1) 設置場所が広くとれる場合

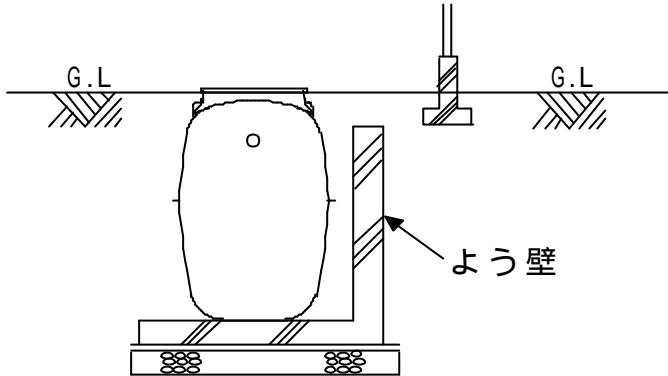
設置場所が広くとれる場合は、浄化槽を建築物等から離して設置してください。

(2) 設置場所が狭い場合

設置場所が狭く、浄化槽を建築物等から離して設置できない場合は、よう壁を設けてください。



よう壁の仕様は、よう壁にかかる荷重の大きさや荷重の方向によって異なりますので、構造計算を十分行って施工してください。



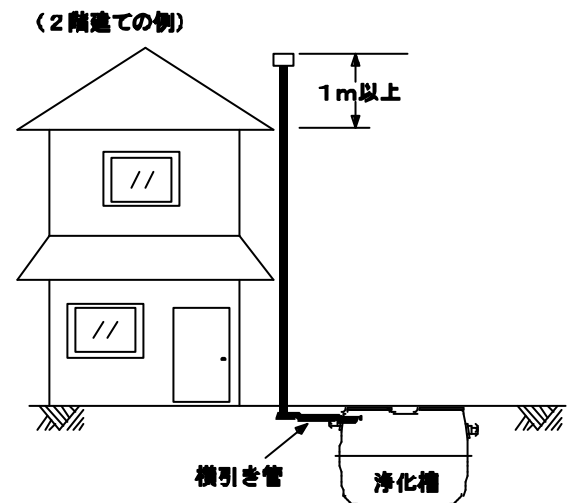
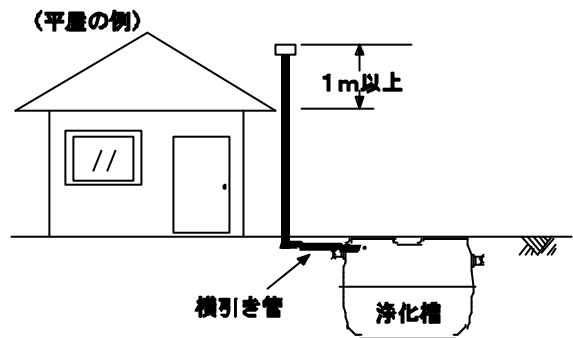
6-5. 臭突配管工事

臭突配管工事は、次の要領で行ってください。

- (1) 臭突管の立ち上げ位置は、近所の建物の窓の位置を配慮して決めてください。
- (2) 横引き管はできるだけ短くし、浄化槽に向かって下り勾配になるようにしてください。
- (3) 立ち上げ高さは、建物の軒下より1m以上高くしてください。
- (4) 立ち上げ管は、風などで倒れないようにサポートを取り付けてください。
- (5) 臭突ファンは、換気風量がブロウ風量の10倍以上あるものを使用してください。

例) 7人槽の場合
 ブロウ風量 = 80L/分 = 4.8m³/時
 必要換気風量 = 4.8m³/時 × 10 = 48m³/時
 よって換気風量は、48m³/時以上とする。

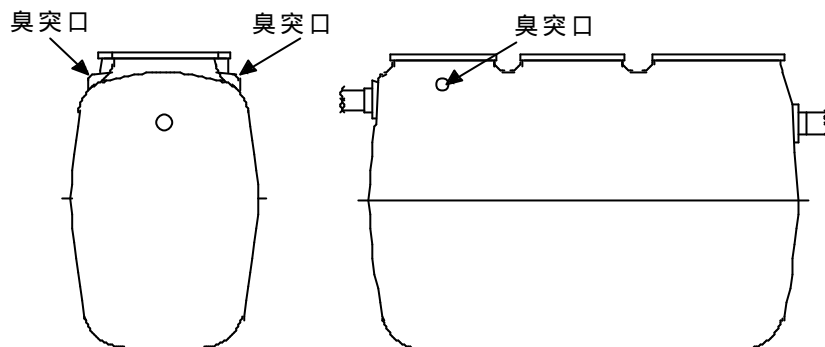
注意 放流ポンプ槽を設けて強制排水を行う場合、臭突配管工事を必ず行ってください。



臭突管の接続方法

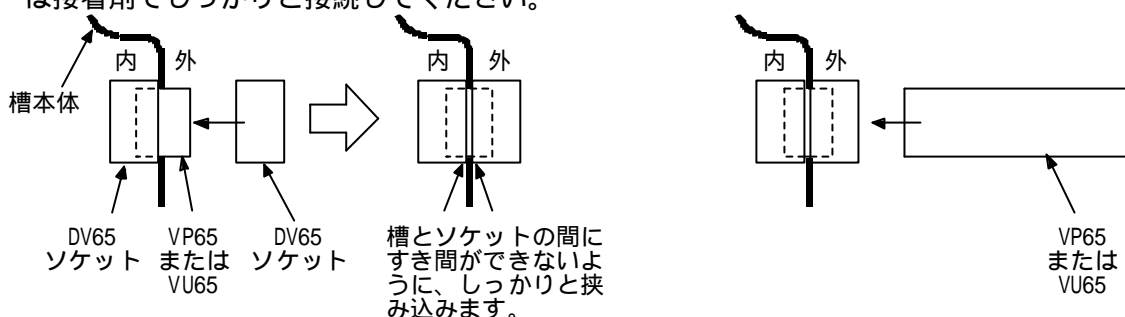
浄化槽には、臭突口を左右2カ所設けてあります。

臭突管を接続する側にある臭突口のキャップを取り外してください。



浄化槽の内と外から、DV65ソケット2個とパイプで臭突口を挟み込みます。ソケットとパイプは接着剤でしっかりと接続してください。

取り付けしたソケットに、臭突配管を接着剤で接続します。



6-6. 地上に設置する場合

地上に設置する場合は次のことに注意してください。

- (1) 浄化槽本体を固定してください。固定は根巻コンクリートなどで行ってください。
固定方法は、p15「6-3.湧水がある場合」の浮上防止工事を参照してください。
- (2) 地震や振動に対して十分な安全対策を行ってください。
- (3) 槽に接続する配管類は、フレキシブルパイプ等を使用してください。
- (4) 浄化槽は、長時間紫外線にさらされると外槽が劣化します。表面には、耐候性の塗料を塗布してください。
- (5) 点検口の周囲には、維持管理に必要な点検用歩廊を設けてください。

浄化槽本体は必ず特注品(強度アップ品)としてください。

6-7. 屋内に設置する場合

屋内に設置する場合は、次のことに注意してください。

- (1) 固液分離槽や嫌気濾床槽では炭酸ガスや硫化水素等が発生し、担体反応槽では酸素が消費され水素が発生しますので、必ず換気設備を設けてください。
換気設備の位置および仕様は、周囲の状況や必要な換気能力を十分に検討して決定してください。
- (2) プロワ、ポンプなどの騒音や振動に対して十分な対策を行ってください。
- (3) 浄化槽の周囲は、維持管理が充分に行える場所を設けてください。
- (4) 浄化槽本体には、建物の荷重がかかることが多いので事前に荷重の検討を充分行ってください。

6-8.寒冷地に設置する場合

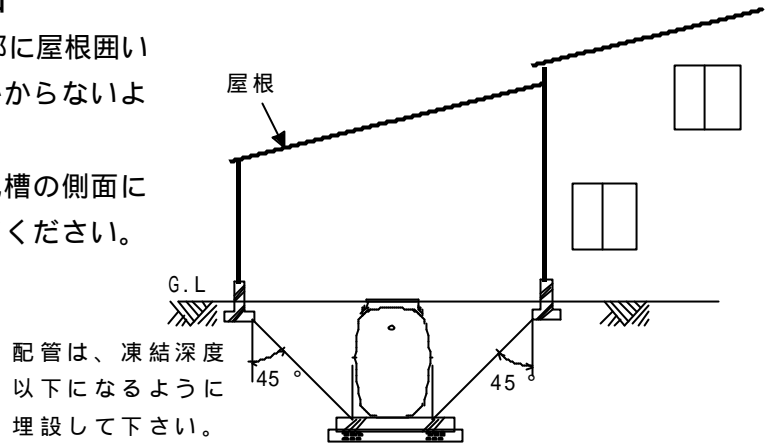
特に、寒さが厳しい場所に設置する場合は、建物から浄化槽までの配管の凍結を防止するために、配管が凍結深度以下になるよう埋設しなくてはなりません。

浄化槽工事が深埋めになる場合は、p14「6-2.深埋めの場合」をご覧ください。

6-9.積雪地帯に設置する場合

積雪が1mを越える場合は、浄化槽の上部に屋根囲い等を設けて、積雪による荷重が浄化槽にかからないようにしてください。

また、地面や建物上部の積雪荷重が浄化槽の側面にかかってくる場合は、十分な対策を行ってください。



6-10.放流ポンプ槽 (オプション)を設置する場合

放流ポンプ槽を設置する場合は、次のことに注意してください。

- (1) ポンプに同梱してある説明書中の保証書に必要事項を記入し、お客様へ必ず渡して下さい。
- (2) 浮上防止金具を用いて固定してください。



警告

浮上防止金具を使用せずに水張りを行った場合、ポンプ槽が転倒し傷害事故が生ずる恐れがあります。また、槽自身が地下水などにより浮上する恐れがあります。

- (3) 埋め戻しに際しては本槽と放流ポンプ槽の間にも十分に土を入れて、槽に荷重が均等にかかるように施工をしてください。



注意

本槽と放流ポンプ槽の間に充分土が入っていないと槽の破損が生じる恐れがあります。

- (4) ポンプ槽の配管およびポンプは配送中の破損防止のため、組み付けられていません。別途ご手配し、埋め戻し完了後に部品を接続をしてください。水中ポンプのフロートスイッチが正しく作動するように設置してください。
- (5) ポンプ槽の電気配線工事に際してはポンプ槽の配線用配管入口は配線後に塩素ガスの逆流防止のため、必ずコーキング処理をしてください。
- (6) ポンプ付属のフロートスイッチは説明書を参考にして、正しく施工して作動確認をしてください。
- (7) 必ず臭突配管工事を行ってください。(p16参照)

7. アフターサービスについて

7-1. 保証期間と保証の範囲

1) 保証期間

- (1) 槽 本 体：使用開始日より3年
- (2) 駆動部・内部部品：使用開始日より1年
(駆動部はブロワ・ポンプ・動力制御盤などの浄化槽設備類を含む)

ディスポーザの保証は含んでいません。

ディスポーザについてはディスポーザメーカーの保証書を確認してください。

2) 保証の範囲

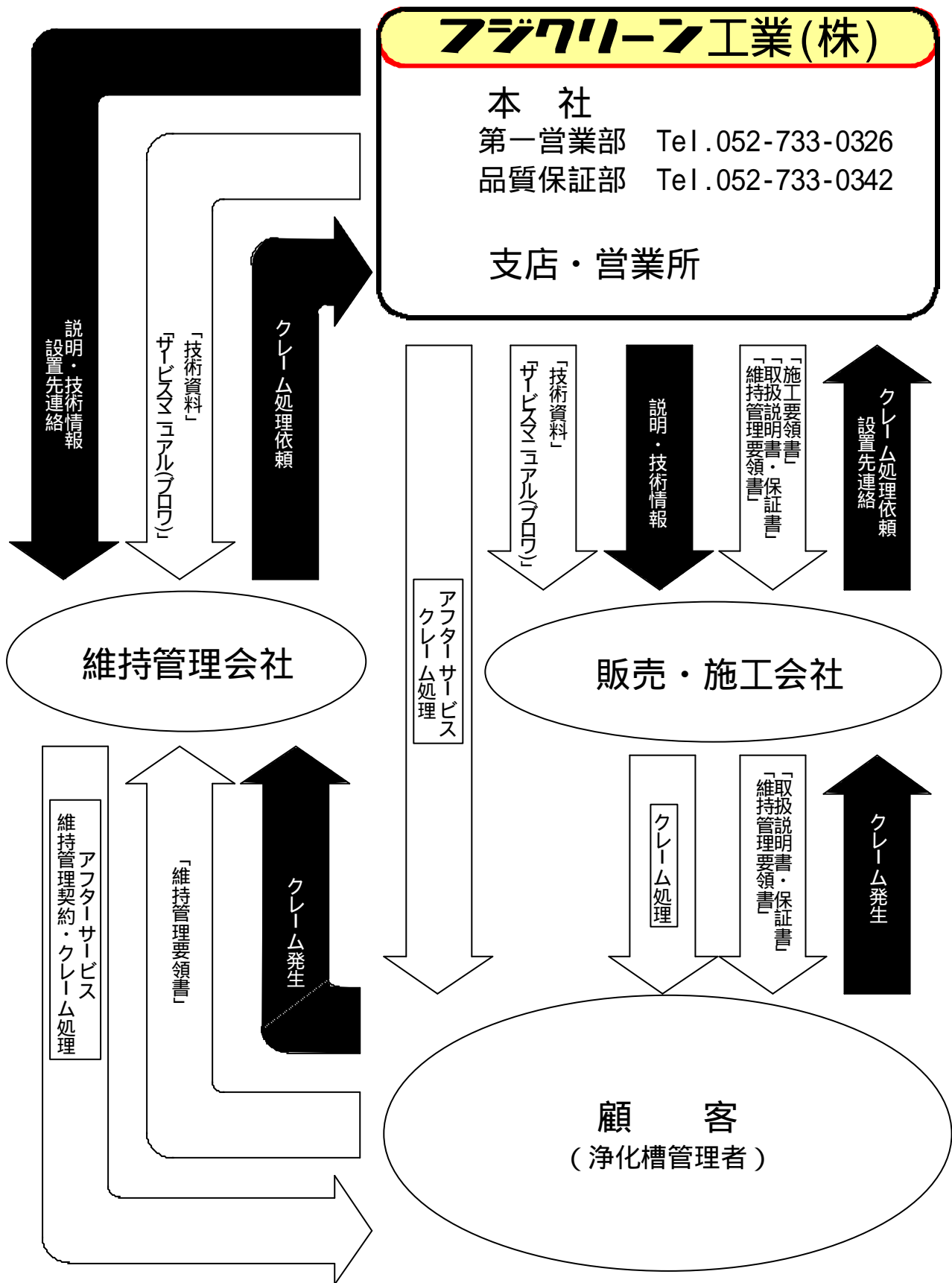
浄化槽法に基づく浄化槽工事業者によって適正に設置され、竣工検査を完了したものが、製造上の責任に依って構造・機能に支障があると認められるときは無償にて修理します。

なお、離島及び離島に準ずる遠隔地への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。

また、次の場合は保証期間中であっても有償といたします。

- (1) 消耗部品
(消毒剤、ブロワのダイヤフラム・弁・エアフィルタなど)
- (2) 適切な維持管理契約がなされていない時
- (3) 適切な工事がなされていない時
- (4) 改造や不適切な修理による故障または損傷
- (5) 駆動部の取付場所の移動等による故障または損傷
- (6) 重車両の通行・振動による故障または破損
- (7) 火災、地震、水害、落雷、雪害その他の天災地変による故障または損傷
- (8) その他取扱いが不適當であった場合
- (9) 保証書の提示のない場合

7-2. サービス体制



注) ディスポーザについては使用していますメーカーにお問い合わせください。

ディスポーザ対応家庭用高度処理浄化槽 フジクリーンCD型 工事のチェックリスト

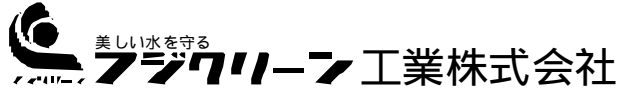
CD型の工事が完了しましたら、このチェックリストで工事の適正を確認して下さい。確認後はこのチェックリストを取扱説明書、維持管理要領書、保守点検のチェックリストおよび清掃のチェックリストと一緒にお客様にお渡し下さい。

浄化槽法では、浄化槽工事業者が浄化槽工事を行うときは、浄化槽設備士に実地に監督させ、またはその資格を有する浄化槽工事業者が自ら実地に監督しなければならないと定められています。（ただし、浄化槽設備士または浄化槽設備士の資格を有する浄化槽工事業者が自ら浄化槽工事を行う場合には、他の浄化槽設備士に監督させる必要はありません。）

設置先	ご住所	
	お名前	
	型式	フジクリーン ディスポーザ対応浄化槽 CD - 型
	工事完了日	平成 年 月 日

検査項目	チェックのポイント	欄
1. 流入管きよおよび放流管きよの勾配	勾配は、1/100以上とられているか。ディスポーザ接続配管は1/管径以上とられているか。汚物や汚水の停滞がないか。	
2. 放流先の状況	放流口と放流先水路の水位差が適切に保たれ、逆流のおそれはないか。	
3. 誤接合等の有無	生活排水が全て浄化槽に接続されているか。	
	雨水や工場廃水などが浄化槽に流入しないか。	
4. 升の位置および種類	起点、屈曲点、合流点および直線部分については配管の内径の120倍を超えない範囲で、適切な升が設置されているか。	
	流入系の升は全てインバート升になっているか。	
	ふたは密閉型になっているか。	
	二重トラップになっていないか。	
5. 流入管きよ、放流管きよおよび空気配管の変形、破損	管が露出してないか、また土かぶり不足による変形、破損のおそれはないか	
6. かさ上げの状況	かさ上げは、30cm以内になっているか。	
	バルブの操作などの維持管理を容易に行うことができるか。	
7. 浄化槽本体の水平の状況	水平が保たれているか。	
8. 漏水の有無	漏水が生じていないか。	
9. 濾材・担体等の漏れ、変形、破損および固定の状況	嫌気濾床槽の濾材および担体反応槽の担体が漏れていないか。	

検 査 項 目	チ ェ ッ ク の ポ イ ン ト	欄
10. 散気装置の設定状況 (施工要領書p11参照)	担体反応槽の上面から気泡が均一に出ているか。	
11. 移行装置の設定状況 (施工要領書p12参照)	移行バルブは浄化槽の人槽に対応する目盛位置に設定されているか。	
12. 循環装置の設定状況 (施工要領書p12参照)	循環バルブは浄化槽の人槽に対応する目盛位置に設定されているか。	
13. 越流堰の設定状況 (施工要領書p12参照)	越流堰が水平で移流が均等になっているか。	
14. 薬剤筒の固定状況	薬剤筒はホルダーに固定されているか。 薬剤筒は傾いていないか。	
15. ブロワ（および放流ポンプ）の設置、稼働状況	D種(第3種)接地工事が行われたか。	
	電源の1次側に、漏電遮断器(ELB)がついているか。	
	ブロワの足とコンクリート基礎の間に隙間がないか。 ブロワにがたつきはないか。	
	放流ポンプのフロートスイッチが正しく作動するように設置されているか。	
	放流ポンプの作動水位が正しく設定されているか。	
16. マンホール蓋の状況	適切な仕様のものが設置されているか。	
	割れなどがないか。	
	がたつきなどが無く、マンホール枠への収まり状態は良いか。	
17. 浄化槽本体の上部 およびその周辺の状況	保守点検、清掃を行える場所が確保されているか。	
	保守点検、清掃の支障となるものが置かれていないか。	
	浄化槽の上部にコンクリートスラブが打たれているか。	
<p>上記のとおり確認したことを証します。</p> <p>平成 年 月 日</p> <p style="text-align: center;">担当浄化槽設備士名 (浄化槽設備士免状の交付番号</p> <p style="text-align: right;">印)</p>		



本社 / 名古屋市千種区今池4丁目1番4号 ☎464-8613 <http://www.fujiclean.co.jp/>
 第一営業部 Tel.(052)733-0326 品質保証部 Tel.(052)733-0342

フジクリーンサービス網

区分	名 称	Tel.	区分	名 称	Tel.
北海道	札幌支店	(011)882-1222	東海	愛知フジクリーン(株) 本社	(0566)81-1122
	東北支店	(0223)24-4122		" 名古屋支店	(052)612-8271
	秋田営業所	(018)865-0748		" 豊橋支店	(0532)88-5871
	山形営業所	(023)631-7199		" 尾張営業所	(0568)26-6333
	古川営業所	(0229)28-3313	近畿	大阪支店	(06)6396-6166
	福島営業所	(024)553-7390		奈良営業所	(0742)61-8401
	郡山営業所	(024)944-7780		和歌山営業所	(073)422-3634
(株)フジクリーン青森		(017)761-1711	滋賀フジクリーン(株)		(077)553-3115
(株)フジクリーン岩手		(019)684-6363	大阪フジクリーン販売(株)		(072)638-0715
関東	東京支店	(03)3288-4511	兵庫フジクリーン(株)		(0797)81-1685
	宇都宮営業所	(028)647-0055	四中国	広島営業所	(082)843-3315
	埼玉営業所	(048)864-3611		高松営業所	(087)881-6121
	茨城営業所	(029)839-2271		松山営業所	(089)967-6123
	群馬営業所	(027)327-5611		岡山フジクリーン(株) 本社	(086)243-8881
	太田営業所	(0276)49-1963		" 津山営業所	(0868)28-5700
	千葉営業所	(0436)42-6821		フジクリーンシマネ(株)	(0852)24-3952
	成田営業所	(0476)23-2122	フジクリーン山口(株) 本社	(083)973-0788	
	(株)フジクリーン茨城		(029)254-7777	" 岩国営業所	(0827)43-1118
	入間フジクリーン(株)		(042)556-2862	" 下関営業所	(0832)63-3718
	(株)正徳フジクリーン		(03)3376-2374	九州	福岡支店
中央フジクリーン(株) 本社		(0426)25-8575	佐賀営業所		(0952)31-9151
" 横浜営業所		(045)341-2761	熊本営業所		(096)387-3521
" 秦野営業所		(0463)75-4152	八代営業所		(0965)34-7500
" 神奈川営業所		(0467)74-3935	大分営業所		(097)558-5135
甲信越	山梨営業所	(055)275-9300	中津営業所		(0979)24-6937
	新潟営業所	(025)271-8668	宮崎営業所		(0985)32-3064
	松本営業所	(0263)27-2080	鹿児島営業所		(099)257-3501
	北陸営業所	(076)240-0170	川内営業所	(0996)27-2905	
	新潟フジクリーン(株) 本社	(0258)36-1871	国分営業所	(0995)42-8422	
	" 上越支店	(025)545-1033	鹿屋営業所	(0994)43-4437	
北陸フジクリーン(株) 本社	(076)429-4170	フジクリーン久留米(株)	(0942)44-4777		
" 金沢営業所	(076)240-0141	フジクリーン長崎(株)	(095)849-1811		
フジクリーン福井(株)	(0776)34-7123	(平成18年1月10日現在)			
東海	名古屋支店	(052)733-0250	名称・電話番号は変更する場合がありますのでご了承ください。		
	沼津営業所	(055)924-0064			
	静岡営業所	(054)286-4145			
	浜松営業所	(053)465-4358			
	岐阜営業所	(058)274-1011			
	四日市営業所	(0593)39-2634			
	津営業所	(059)235-4631			